## 写 真 図 版



1 遺跡全景(1)(上空北東から)



2 遺跡全景(2)(上空北から)







3 基本土層

a A-A'(南東から) b B-B'(南西から) c C-C'(西から)

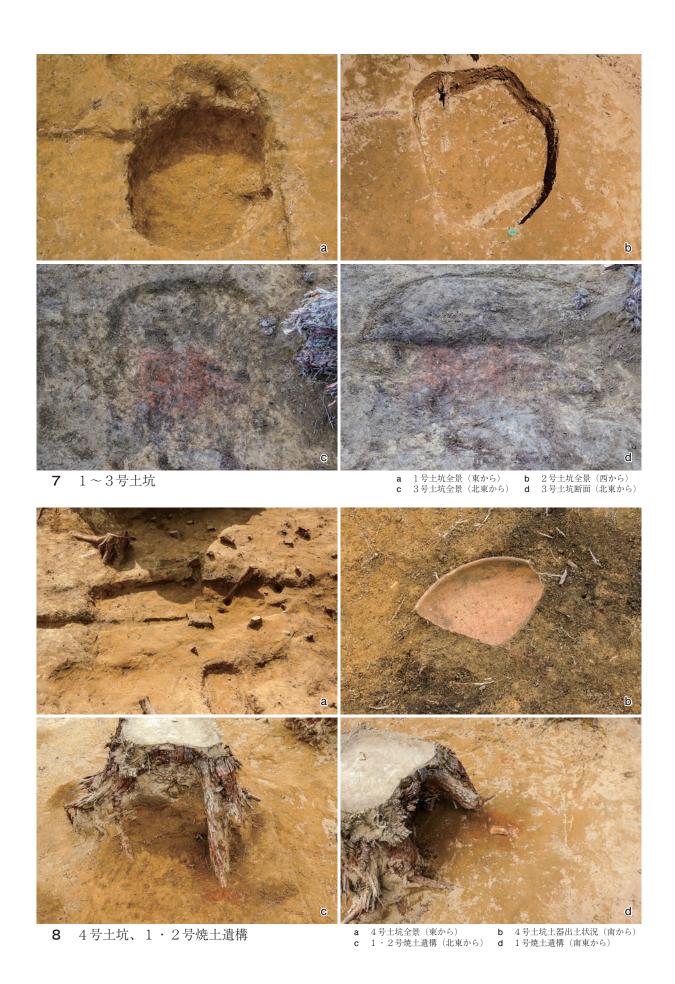




1号竪穴状遺構 (南から) 5



1号木炭窯跡 6

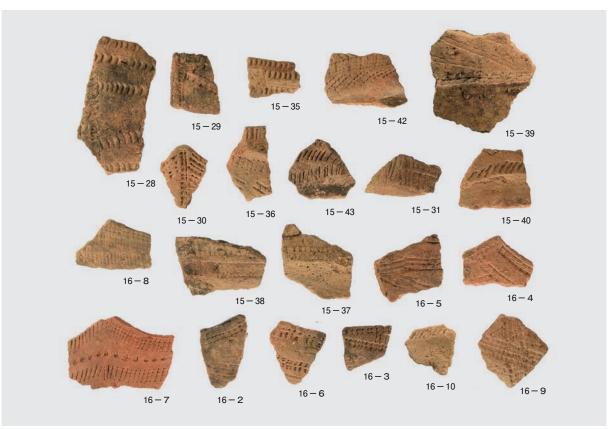




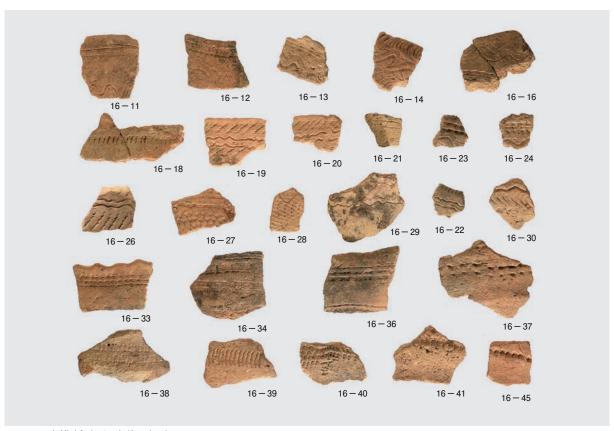
9 遺構内出土遺物



遺構外出土遺物 (1)



11 遺構外出土遺物(2)



12 遺構外出土遺物(3)



13 遺構外出土遺物(4)

44



14 遺構外出土遺物(5)



15 遺構外出土遺物(6)

## 報告書抄録

ふり	がな	いっぱんこくどう349ごう(おおつなきこうく)かんれんいせきはっくつちょうさほうこく 1							
書	名	一般国道349号(大綱木工区)関連遺跡発掘調査報告 1							
副書	名	向ノ入山遺跡							
シリー	ズ 名	福島県文化財調査報告書							
シリーフ	《番号	第536集							
編著	者名	佐藤 啓 渡辺和行							
編集	機関	公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部調査課 〒 960-8115 福島県福島市山下町 1-25 TEL024-534-2733							
発 行	機関	福島県教育委員会 〒 960-8688 福島県福島市杉妻町 2-16 TEL024-521-1111							
発 行 年	月 日	令和元年	令和元年11月29日						
所収遺跡名	所名	三 掛	コー	- ド	北緯	東 経	調査期間に	調査面積	調査原因
別収退跡石   別1		C NR	市町村	遺跡番号	o , "	0 / "	神雀期间	神	神宜原囚
福島県伊達郡 かわまたまらなおあがまたな き 川俣町大字大綱木 あぎむかいのいりやま 字问ノ入山遺跡		3083	00232	37° 37′ 44″	140° 35′ 45″	20180601	930m²	道路改良工 事に伴う記 録保存調査	
所収遺跡名	種 類	主な時代	主な	遺構	主な遺物	特記事項			
むかいのいりやま 向ノ入山遺跡	集落跡	縄文時代 平安時代 中 世	竪穴住居路 竪穴状遺植 木 炭 窯 路 土 よ 焼 土 遺 植 遺物包含層	博 1 基   赤 1 基   亢 4 基   毒 2 基	親土須石石 銭 鉄 文師恵製 文師恵製 漢	縄文時代の遺物包含層と平安時代の小規模な集 落跡が検出された。			
要 約 向ノ入山遺跡は、広瀬川左岸の丘陵上に立地する。遺跡は上台館跡の範囲に含まれるが、川俣町が実施した確認調査で館跡に伴う遺跡・遺物は発見されず、平安時代の集落跡と推定されたため、新規登録された遺跡である。 調査の結果、本遺跡は縄文時代・平安時代・中世の複合遺跡であることが判明した。縄文時代の確実な遺構は確認できなかったが、土坑の一部は縄文時代に属する可能性がある。遺物は、早期・前期・後期・晩期の土器・石器が出土している。そのうち調査区北部では、早期中葉の常世式土器を主体とした遺物包含層が確認された。後晩期の土器は調査区東部から出土する。常世式土器とは出土地点が異なり、その量も少ない。古代の遺構としては、竪穴住居跡と竪穴状遺構・土坑がある。竪穴住居跡は、調査区西端の尾根上に立地し、東辺にカマドが付属している。カマドは、芯石を多用して構築されており、煙道上部には土師器や須恵器の破片が用いられていた。出土した土師器から、住居跡の年代は、9世紀前半とみられる。竪穴状遺構は、調査区南東部の尾根上に立地する。4号土坑と重複し、これより新しい。住居跡の可能性が高いが、カマド・柱穴などの付属施設がないため、竪穴状遺構とした。中世以降の遺構・遺物は、木炭窯跡と古銭があげられる。古銭は、住居跡の堆積土から出土した「紹聖元寶」(初鋳年1094年)で、中世以降に遺跡に残されたと考えられる。									

\*経緯度数値は世界測地系(測地成果2011)による。

福島県文化財調査報告書第536集

## 一般国道349号(大綱木工区)関連遺跡発掘調査報告1

## むかいのいりやま 向ノ入山遺跡

令和元年11月29日発行

編 集 公益財団法人福島県文化振興財団 遺跡調査部(〒960-8115)福島県福島市山下町1-25

発 行 福島県教育委員会 (〒960-8688)福島市杉妻町2-16

福島県土木部 (〒960-8670) 福島市杉妻町2-16

印 刷 八幡印刷株式会社 (〒970-8026) いわき市平字田町82-13